

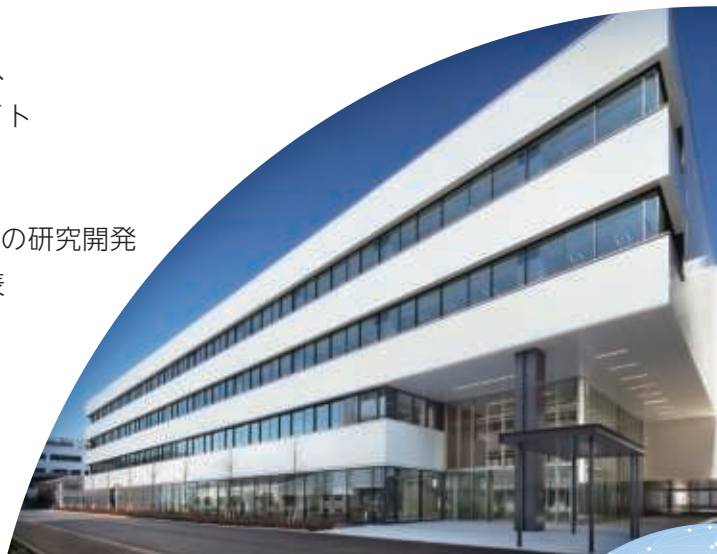
株主通信

第156期

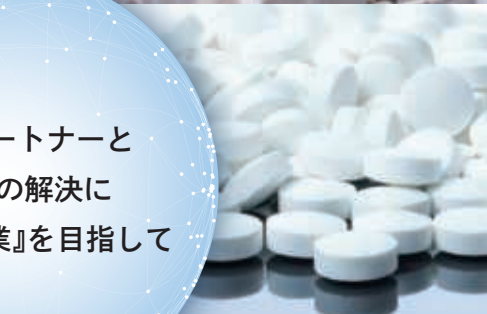
[2018年4月1日～2019年3月31日]

CONTENTS

- 01 株主の皆様へ
- 04 業績ハイライト
- 05 TOPICS
- 07 特集
SHIMADZUの研究開発
- 11 連結財務諸表
- 12 役員紹介
- 13 株式情報
- 14 会社概要



『世界のパートナーと
社会課題の解決に
取り組む企業』を目指して



超高速液体クロマトグラフ
「Nexeraシリーズ」(左)と
高速液体クロマトグラフ
質量分析計「LCMS-9030」(右)
※製品の説明は、
5・6頁をご覧ください。



成長戦略の着実な実行により、
最終年度を迎えた中期経営計画の
達成に向け全力で取り組んで参ります。

2019年6月 代表取締役 社長

上田輝久

社 是
科学技術で社会に貢献する

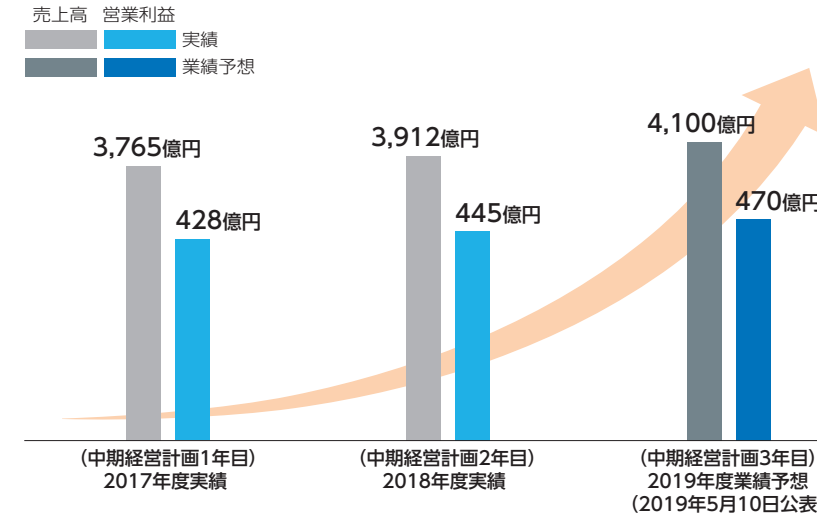
経営理念
「人と地球の健康」への願いを実現する

第156期 連結業績ハイライト

売上高	3,912億円	前年度比 3.9%	▲
営業利益	445億円	前年度比 3.9%	▲
経常利益	455億円	前年度比 8.6%	▲
親会社株主に 帰属する 当期純利益	325億円	前年度比 9.0%	▲

中期経営計画 2017年4月~2020年3月

目指す姿 **世界のパートナーと社会課題の解決に取り組む企業**



2019年度 業績目標
(2017年 中期経営計画策定時点)

売上高	4,000億円以上
海外売上高比率	50%以上
営業利益	450億円以上
営業利益率	11%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	10%以上

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く
御礼申し上げます。

第156期の業績および中期経営計画の進捗と、
今後の見通しをご報告いたします。

当連結会計年度の業績と配当

当社グループは、中期経営計画に沿って、「世界の
パートナーと社会課題の解決に取り組む企業」を目指し、「アドバンスト・ヘルスケア」など成長分野への投資、AI・IoTを活用したアフターマーケット事業の拡大や重点機種競争力強化などによる収益力強化、また組織基盤の変革など、成長に向けた施策を積極的

に進めています。

当連結会計年度は、年度の後半において産業機器
事業では半導体市況など一部の分野で停滞が見られたものの、主力の計測機器事業では、国内外での企業の研究開発や食品・環境規制への対応など底堅い需要が続きました。これに対し、当社グループは、新製品・新アプリケーションの投入、販路・サービスの強化など積極的な展開を行いました。

この結果、売上高は3,912億1千3百万円(前年度比3.9%増)となり、営業利益は444億8千万円(同3.9%増)、経常利益は454億6千2百万円(同8.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は325億2千3百

万円(同9.0%増)となり、4期連続で過去最高の業績を達成することができました。

期末配当金は、前期に比べ2円増配し、1株につき15円とさせていただきます。なお、中間配当金を含めました当期の配当金は、前期に比べ4円増の1株につき年28円となりました。

中期経営計画の進捗について

2018年度は、血液から脳内アミロイド蓄積を推定する受託分析の開始、2017年に買収したフランスのAlsachim SAS社の技術を用いた免疫抑制剤分析キットを発売するなど、成長分野と位置づけた「アドバンスト・ヘルスケア」領域での事業化を進めています。また、超高速液体クロマトグラフ「Nexeraシリーズ」のラインアップを一新し、高速液体クロマトグラフ質量分析計「LCMS-9030」を発売しました。

さらに、収益力強化のためにアフターマーケットビジネスの強化にも引き続き取り組みました。産業機器事業ではドイツのinfraserv Vakuumservice GmbH (IVG社)を買収し、欧州における販売・サービス体制を強化し、計測機器事業では中国の消耗品販売の合併会社を完全子会社化、医用機器事業では米国の代理店を買収し、販売・サービス体制の強化を図りました。

また、社員が健康で効率的に業務が遂行できる環境を整えるため、社員向け健康情報提供サイトの利用拡大やRPA(ロボットによる業務自動化)の活用等を

通じて、「働き方改革」を推進しています。

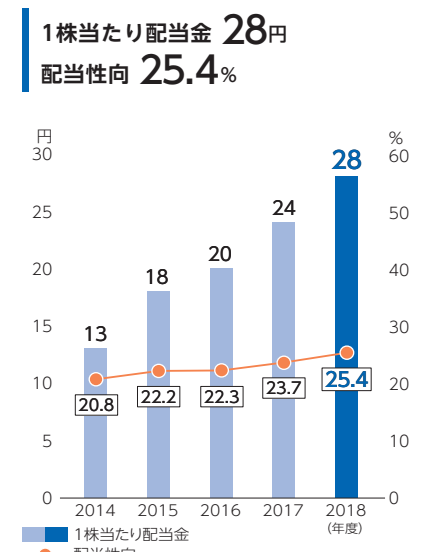
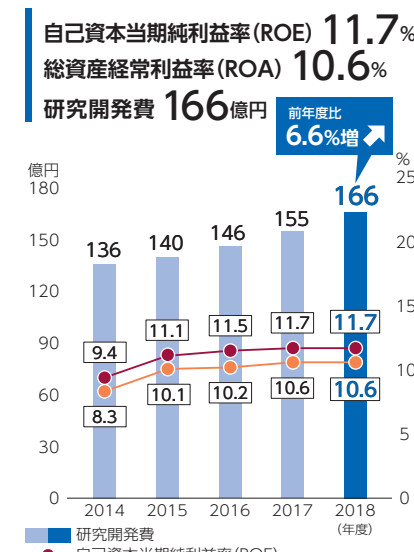
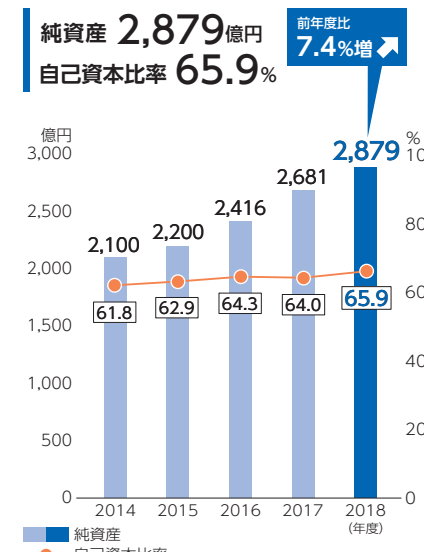
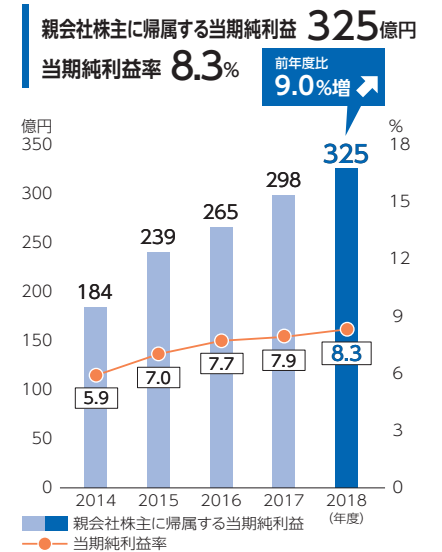
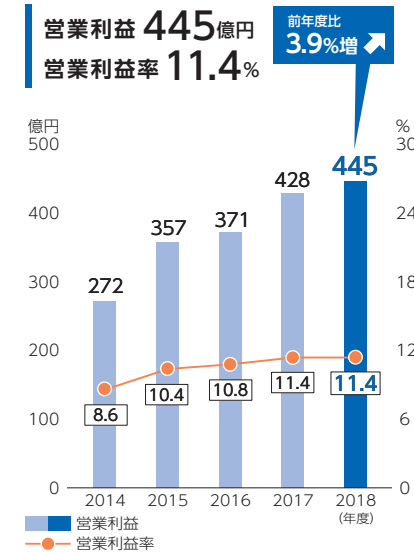
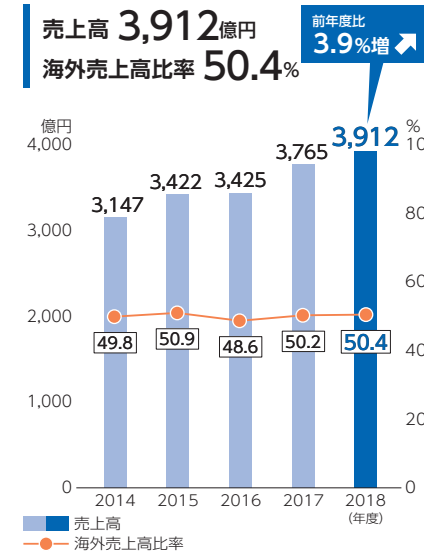
今後の主な取り組みについて

従来の製品・サービスを基軸とした顧客への価値提供を計画的に進めることに加え、顧客の課題解決を目指し、データや消耗品も活用した新サービスの具体化に積極的に取り組みます。また、ヘルスケア分野では、2019年6月に開所したヘルスケアR&Dセンターにおいて、オープンイノベーションを進め、事業化に繋がっていきます。

収益力と資本効率の向上を目的とし、事業資源の見直しや効率化を進めるとともに、外部パートナーや新たに当社グループに加わった企業との連携を積極的に進め、新たなビジネスモデルを顧客とともに具体的に創出することを目指します。

事業基盤を強化するために、「働き方改革」を進め、社会・顧客の要求にスピーディーに応えることのできる組織へと成長を加速します。また、SDGs(国連の掲げる持続可能な開発目標)などに代表される社会課題の解決を視野に、企業価値の向上を図り、事業戦略として有益な施策を実行する組織を目指します。

株主の皆様には、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※当期より「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しており、過年度については遡及適用後の値を記載しています。

計測機器
事業

超高速液体クロマトグラフ「Nexeraシリーズ」のラインアップを一新

液体クロマトグラフ(LC)は当社の主力製品のひとつであり、試料中の成分を正確に分離して成分ごとに定性(種類の特定)・定量(濃度の特定)を行う分析装置で、医薬・ライフサイエンス・化学・環境・食品など広範な分野での研究開発や品質管理、検査に活躍しています。

2019年3月に「Nexeraシリーズ」のラインアップを一新し、グローバルに拡販を進めています。

新シリーズでは、徹底したマーケティングに基づき、分析データの信頼性を高める基本性能の向上はもちろん、装置の小型化、最新のITテクノロジーの導入による高度なユーザー支援、大幅な省電力化などを実現しており、「次世代LC」と呼べるものです。

大型タッチパネルを用いた装置制御、センサ技術を応用した高度な自己診断機能、IoT技術を活用した装置の遠隔監視機能、分析精度の向上などを実現しています。また分析時間の短縮、従来比3倍以上の試料搭載(オプション使用時)など、創薬や臨床の分野で不可欠な超高速、多検体処理にも対応しています。

このように付加価値を大きく高めた「Nexeraシリーズ」の新ラインアップで、業績の拡大を図っていきます。



超高速液体クロマトグラフ「Nexeraシリーズ」

計測機器
事業

高度な定性・定量分析を実現する質量分析計の新製品を発売

複雑な化合物の高精度な定性(種類の特定)・定量(濃度の特定)を可能にし、構造解析に有効な高速液体クロマトグラフ質量分析計「LCMS-9030」を2018年6月に発売しました。

本製品は、質量分析計の中でも特に精密な分析を可能にする飛行時間型の質量分析計です。2010年の発売以来、需要が拡大し続けているトリプル四重極型質量分析計の開発で培った高度な定量分析技術や、新開発した独自の特許技術などを駆使し、高い感度と分解能を実現しました。また本製品は、温度変化に対する安定性が特に高い評価を得ており、高精度な分析が求められている製薬・バイオや食品・環境などの分野で威力を発揮します。

今後、ラインアップやアプリケーションの拡充を進め、より幅広い分野での需要を開拓し、質量分析計の事業拡大を図ります。



国際的に権威のあるデザイン賞「iF DESIGN AWARD 2019」を受賞した高速液体クロマトグラフ質量分析計「LCMS-9030」

医用機器事業

産業機器事業

M&Aによる欧米における直販・サービス体制の強化

M&Aを通じた直販・サービス体制の強化によって業績の拡大を図るとともに、新規市場の開拓を積極的に推進しています。

北米では、医用画像診断機器の販売・サービスを手がける子会社を通じ、米国の販売代理店であるCore Medical Imaging, Inc. (CMI社)を2019年1月に買収しました。米国北西部の顧客に密着した体制を持つCMI社の買収により、米国で需要が大きい回診用X線撮影装置や血管撮影システムの直販・サービス体制を強化します。

欧州では、半導体市場などでターボ分子ポンプのサービスを手がけるドイツのinfraserv Vakuumservice GmbH (IVG社)を2018年7月に買収しており、同社を中心に欧州地域における製品とサービスの拡販を図っています。



回診用X線撮影装置



ターボ分子ポンプ

産業機器
事業

超硬工具やセラミックス分野向けの真空熱処理炉が好調

自動車や半導体分野で用いられる超硬工具(切削加工用の超硬合金製工具)やセラミックスの需要拡大を背景に、真空熱処理炉の売上が大きく伸びました。

真空熱処理炉は、真空・加圧状態で加熱処理を施し、金属やセラミックス系素材などを焼き固め、強度と一定の形状を得る装置です。当社の製品は、1,000℃を超える高温処理技術や圧力制御技術、炉内への不純物混入を抑える構造などが高い評価を得ています。

このような真空・高温加熱技術は、風味の向上・栄養素の保持などの付加価値を生み出す技術として食品分野でも注目されており、今後、同分野において新たな応用も進めていきます。



真空熱処理炉

「社会課題の解決」に科学技術で貢献

－ 基盤技術・製品・サービス・応用技術開発機能の拡充とオープンイノベーションの推進 －

開発マネジメントの高度化と事業展開の加速

多様化・複雑化する顧客ニーズに対応するとともに、先進医療の実現、食の安全性確保、環境汚染の防止など、様々な社会課題の解決に向けて、当社は開発マネジメントの高度化と事業展開の加速を図っています。

現在、化合物分析の高感度化・高分解能化を追求する技術の開発や、再生医療の分野に欠かせない細胞培養技術といったバイオテクノロジー領域などでの研究開発に積極的に取り組んでいます。また、がんや認知症などの早期発見に繋がる検査に質量分析計を活用する技術開発にも注力しています。

加えて、装置の小型化や操作性の向上を進めているほか、画像処理・データ処理やアフターサービスなどに欠かせないAI（人工知能）技術の開発にも取り組んでいます。これらの基盤技術研究や製品・サービス開発に加えて、世界各地のニーズを素早く製品・応用技術開発に反映さ

せるため、米国・欧州・中国・アジアにイノベーションセンターを設置しています。

先進的な大学・公的研究機関・企業とのオープンイノベーションなどの「開発マネジメントの高度化」を強化し、研究開発の一層の深化とスピードアップを図っています。同時に、M&A・アライアンスなどによる外部経営資源の積極的な導入を行い、事業部間での連携も強化し、「事業展開の加速」を図っています。

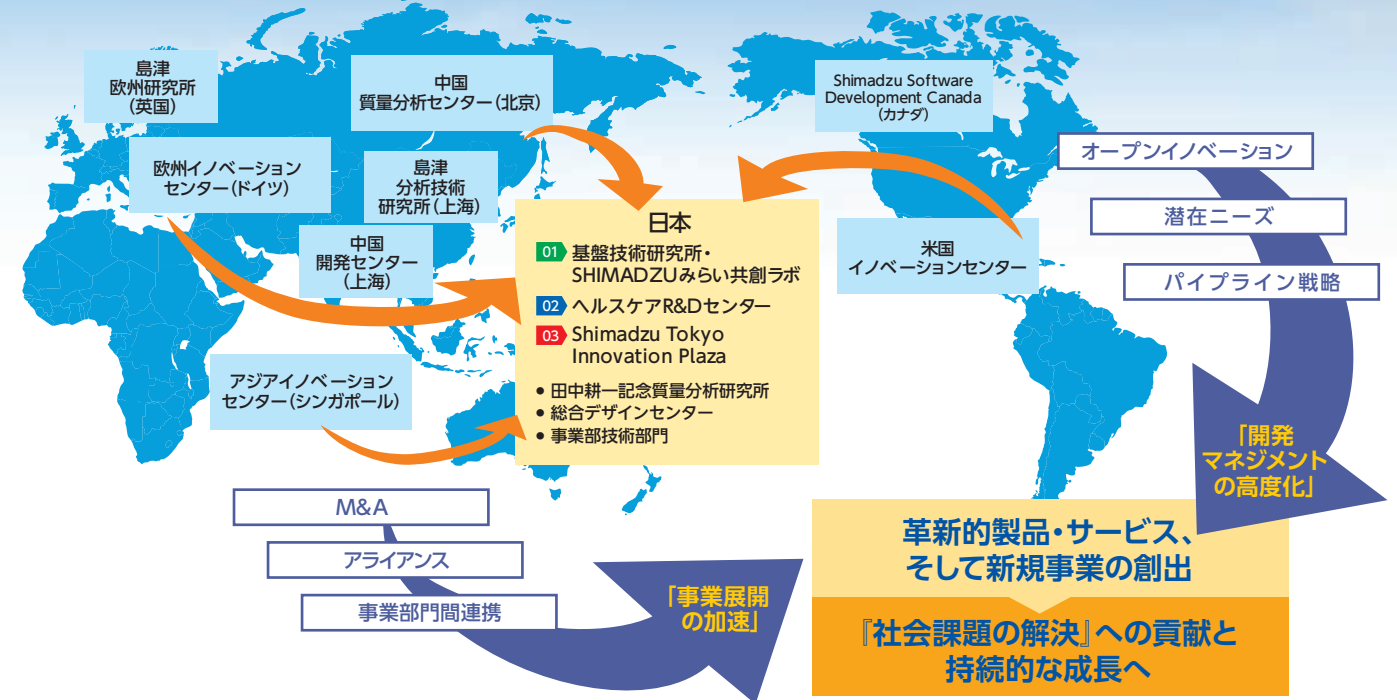
「科学技術で社会に貢献する」という社是に基づき、ヘルスケア・インフラ・マテリアル・環境/エネルギー分野における『社会課題の解決』に貢献していきます。

研究開発体制の拡充を推進

現在、当社は、ヘルスケア事業の中核的存在となる「ヘルスケアR&Dセンター」（京都市本社内）の開所（2019年6月）に続いて、基盤技術研究の大幅な拡充を図る「SHIMADZUみらい共創ラボ」（京都府相楽郡精華町）を2020年8月に、応用技術開発をさらに強化するための「Shimadzu Tokyo Innovation Plaza」（神奈川県川崎市）を2020年12月に順次、立ち上げる計画です。

研究開発拠点を大幅に拡充し、研究開発活動を活発化することで、革新的な新製品・新サービスの創出に繋がっていきます。

SHIMADZUのグローバル研究開発拠点



01 基盤技術研究
SHIMADZUみらい共創ラボ

既存の基盤技術研究所内に設置。新技術の獲得やオープンイノベーションの推進により、先端技術、脳五感、革新バイオ、AIなどの研究を進め、社会課題の解決に貢献していきます。（京都府相楽郡精華町、2020年8月竣工予定）



02 製品・サービス・新事業開発
ヘルスケアR&Dセンター

ヘルスケア関連部門を集約。得られた技術を早期に製品化し、異分野のパートナーとの協業を積極的に進めることで、ヘルスケア領域でのさらなる成長に繋がっていきます。（京都府京都市本社内、2019年6月開所）



03 分析計測の応用技術開発
Shimadzu Tokyo Innovation Plaza

ライフサイエンス・環境分野の新産業を創出する川崎市の「キングスカイフロント」に分析計測の応用技術開発拠点を新設。羽田空港に近い立地も活かしオープンイノベーションを推進していきます。（神奈川県川崎市、2020年12月竣工予定）



重点分野での先端的研究開発の推進



SDGs: 2030年に向けて国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」



ヘルスケア 病気予防、健康増進に寄与する共同研究

がん・肝疾患

前立腺がんのバイオマーカー*開発に貢献

公益財団法人がん研究会の研究チームは、独自の分析法と当社の質量分析計を用い、前立腺がんのバイオマーカーを発見。この知見によって、前立腺がんの判定に必須であった精密検査の負担を軽減する新たな検査法を確立しました。

大腸がんの早期スクリーニング法の開発

神戸大学大学院医学研究科、国立がん研究センターと共同で、血液中の代謝物を当社の質量分析計で網羅的に分析し、早期の大腸がんを高感度に検出できるスクリーニング法を開発しました。現在、この手法の実用化を進めています。

非アルコール性脂肪肝のバイオマーカーの発見

聖路加国際大学と共同で、放置すると肝硬変、肝がんに行進することもある非アルコール性脂肪肝の有無を判定できるバイオマーカーを発見。当社の質量分析計で少量の血液から判定可能であり、今後も同大学が持つデータを生かしながら、さらに他の病気の検査法の開発を目指します。

*バイオマーカー：病気の診断や薬の効果の判定に役立つ指標となる物質のこと。血液や尿に含まれるたんぱく質などがこれに該当する。

認知症

認知症検査の先端的研究開発と事業化への取り組み

国立長寿医療研究センター等とともに、アルツハイマー病の原因物質と考えられるアミロイドの蓄積をわずかな血液から検出する手法を確立し、グループ会社の(株)島津テクノリサーチで「アミロイドMS受託解析サービス」を2018年8月に開始しました。また世界の研究機関から収集した約2,000の血液検体の分析を同社で開始、同手法の精度や有用性の検証を国際的な共同研究の中で多角的に進めています(国立研究開発法人日本医療研究開発機構の委託研究)。



統計解析会社の(株)ERISAと共同で脳のMRI画像を用いた認知症の早期検出に取り組んでいる島根大学医学部とは、認知機能に関するバイオマーカー等についての共同研究契約を2018年12月に締結しました。さらに当社は、介護事業者のメディカル・ケア・サービス(株)とも協業し、認知症の早期検出の事業化に取り組んでいます。

地方創生への貢献

京都府

「イノベーション都市の創造」を目的とする包括連携協定を2019年3月に京都府と締結し、「けいはんな学研都市における脳機能解析技術の研究開発」をはじめとする合計10項目で協働します。この協定に基づき、地域発展への協力およびSDGsの実践を推進し、京都から世界へとはばたく企業・人材の創出に貢献していきます。



包括連携協定締結式(2019年3月) 京都府 西脇知事(写真右)と当社社長 上田

山口県

健康づくりなどをテーマとした技術連携の基本合意書を山口県・山口市・山口大学の3者と締結し、県内の医療関係機関や住



基本合意書締結式(2018年12月) (左から)山口大学 岡学長、当社社長 上田、山口県 村岡知事、山口市 渡辺市長

民モニターの協力のもと、山口大学の知見を組み合わせ、運動・食事療法などによる認知症リスクの低減・予防に関する実証事業に取り組んでいます。

宮崎県

宮崎県と共同で2015年に設立した一般社団法人 食の安全分析センターでは、当社の超臨界流体クロマトグラフ [Nexera UC]を導入し、500を超える種類の残留農薬成分を一斉に分析する手法の開発や、健康に関与する食品中の機能性成分の分析などに取り組んでいます。この宮崎県との取り組みが評価され、「第1回 日本オープンイノベーション大賞」農林水産大臣賞を2019年3月に受賞しました。

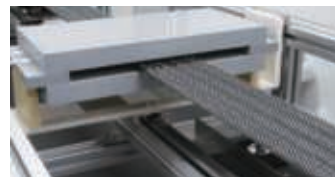


一般社団法人 食の安全分析センターで使用している「Nexera UC」

インフラ 安全システムの構築

エレベータなどの安全管理システム

航空機器事業で培ってきた磁気測定技術を応用し、エレベータなどのワイヤロープの損傷状態を迅速に検知する新技術を開発しました。早期実用化に向けてさらなる改良や評価を進めています。今後は、エレベータのワイヤロープ全体の管理をクラウド上で行う安全管理システムの構築を目指します。



複数本のワイヤロープの状態を非接触で評価 (試作品)

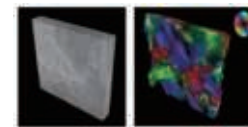


マテリアル 新素材の評価技術を開発

複合材の構造情報を可視化するX線技術

燃費性能の向上のため、航空機や自動車に炭素繊維強化プラスチック(CFRP)などの軽量の複合材が採用されています。CFRPなどの複合材は、強度設計や破壊メカニズムが複雑で未解明な部分が

多く、内部観察に強いニーズがあります。当社は、「位相イメージング」と呼ばれるX線技術を活用し、従来法では観察が難しかったCFRPなどの複合材の構造情報のクリアな解析を実現しました。今後、早期の実用化を目指します。



左:従来のCT画像、右:新技術による解析画像(強度に影響する繊維の方向を定量化)

環境/エネルギー 次世代電池の開発に貢献

リチウムイオン電池材料の蛍光X線分析技術

リチウムイオン電池はスマートフォンや電気自動車の二次電池として広く利用されていますが、長時間化・長寿命化が課題です。現在、次世代リチウムイオン電池の開発には、材料分析に大規模な設備を必要とする放射光が使用されていますが、当社はコア技術であるX線技術を活用し、比較的簡便に分析できる技術の開発を進めています。



連結貸借対照表

(単位: 億円)

科目	当期末 (2019年3月31日)	前期末 (2018年3月31日)
資産の部		
1 流動資産	2,909	2,842
1 固定資産	1,463	1,343
有形固定資産	929	841
無形固定資産	108	92
投資その他の資産	426	410
1 資産合計	4,372	4,185
負債の部		
流動負債	1,333	1,220
固定負債	160	285
負債合計	1,492	1,505
純資産の部		
2 株主資本	2,830	2,585
2 その他の包括利益累計額	49	92
非支配株主持分	0	4
純資産合計	2,879	2,681
2 負債純資産合計	4,372	4,185

※当期より「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を適用しており、過年度については遡及適用後の値を記載しています。

POINT 1 総資産の増加

ヘルスケアR&Dセンターの建設等により固定資産が120億円増加したことに加え、売上債権が72億円増加したことなどにより、総資産は187億円増加しました。

POINT 2 自己資本比率の向上

利益剰余金の増加などにより、自己資本比率は1.9ポイント向上し、65.9%となりました。

POINT 3 通期の過去最高を更新

売上高は前期に比べ3.9%増加し、3,912億円となり、営業利益445億円、経常利益455億円、親会社株主に帰属する当期純利益325億円と4期連続で過去最高額を更新しました。

配当のご案内 2018年度期末配当金 1株当たり15円

配当金は、2019年6月27日(木)以降お受け取りいただけます。

配当金のお支払いに関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777 (通話料無料) 土・日・祝日等を除く9時~17時

連結損益計算書

(単位: 億円)

科目	当期末 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)	前期末 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
3 売上高	3,912	3,765
売上原価	2,340	2,267
売上総利益	1,572	1,498
販売費及び一般管理費	1,127	1,070
3 営業利益	445	428
営業外収益	24	19
営業外費用	14	29
3 経常利益	455	419
特別利益	2	2
特別損失	10	3
税金等調整前当期純利益	447	418
法人税、住民税及び事業税	110	115
法人税等調整額	11	3
当期純利益	326	299
非支配株主に帰属する当期純利益	1	1
3 親会社株主に帰属する当期純利益	325	298

詳しくは当社ホームページより

「決算短信/決算説明会資料」をご覧ください。

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/finance.html>



取締役

代表取締役
会長
中本 晃
取締役会議長/
取締役
古河電気工業
株式会社
社外取締役



代表取締役
社長
上田 輝久
CEO



取締役
上席専務執行役員
三浦 泰夫
理財・営業担当/
東京支社長



取締役
上席専務執行役員
古澤 宏二
経営戦略・
コーポレート・
コミュニケーション
担当



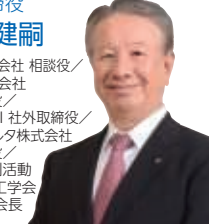
取締役
常務執行役員
北岡 光夫
技術研究担当/
基盤技術研究所長



社外取締役
澤口 実
弁護士



社外取締役
藤原 健嗣
旭化成株式会社 相談役/
コグロ株式会社
社外取締役/
株式会社IHI 社外取締役/
コニカミノルタ株式会社
社外取締役/
特定非営利活動
法人 安全工学会
代表理事・会長



社外取締役
和田 浩子
Office WaDa 代表/
コカ・コーラ ボトラーズ
ジャパンホールディングス
株式会社 社外取締役/
ユニ・チャーム
株式会社
社外取締役
(監査等委員)



監査役

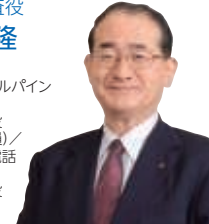
常任監査役
藤井 浩之
大日本塗料株式会社
社外監査役



常勤監査役
小谷崎 眞



社外監査役
飯田 隆
弁護士/
アルプスアルパイン
株式会社
社外監査役
(監査等委員)/
日本電信電話
株式会社
社外監査役



社外監査役
西尾 方宏
公認会計士/
株式会社マンダム
社外監査役/
サムコ株式会社
社外監査役



詳しくは当社ホームページより

定時株主総会に関するご報告

2019年6月26日開催の当社第156期定時株主総会の決議の結果につきましては、インターネット上の当社ホームページに掲載しております「第156期定時株主総会決議ご通知」をご高覧ください。

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/shareholders.html>



株式の状況

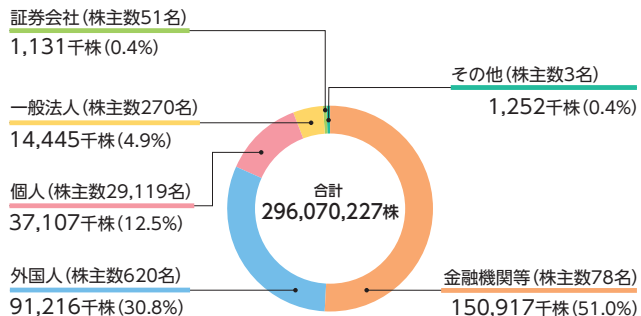
発行可能株式総数 800,000,000株
 発行済株式の総数 296,070,227株
 株主数 30,141名

大株主 (上位10名)

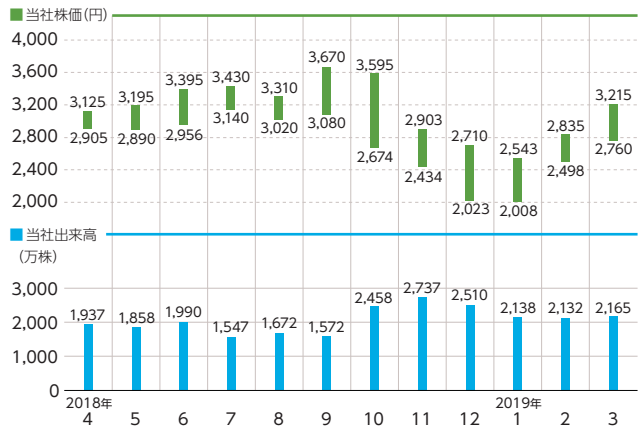
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	22,009	7.47
明治安田生命保険相互会社	20,742	7.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,508	5.60
株式会社三菱UFJ銀行	7,672	2.60
太陽生命保険株式会社	7,411	2.51
東京海上日動火災保険株式会社	6,287	2.13
全国共済農業協同組合連合会	6,101	2.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	5,836	1.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	5,049	1.71
株式会社京都銀行	4,922	1.67

※持株比率は、自己株式(1,249,337株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株価の推移 (東京証券取引所)



会社概要

商号 株式会社島津製作所
 Shimadzu Corporation
 創業 明治8年(1875年)3月
 設立 大正6年(1917年)9月
 本社所在地 〒604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1番地
 電話075-823-1111(代表)
 資本金 26,648,899,574円
 従業員数 (単体) 3,378名 (連結) 12,684名
 連結子会社数 (国内) 23社 (海外) 52社

主要な事業所

本社 京都市中京区西ノ京桑原町1番地
 支社 東京/関西(大阪市)
 支店 札幌/東北(仙台市)/つくば/
 北関東(さいたま市)/横浜/静岡/
 名古屋/京都/神戸/広島/
 四国(高松市)/九州(福岡市)
 工場 三条/紫野(いずれも京都市)/
 厚木(厚木市)/秦野(秦野市)/
 瀬田(大津市)
 研究所 基盤技術研究所(京都府相楽郡精華町/
 京都市)
 田中耕一記念質量分析研究所(京都市)

ホームページ、統合報告書、企業広告のご案内

ホームページ

<https://www.shimadzu.co.jp/>



統合報告書

<https://www.shimadzu.co.jp/ir/library/annual.html>



企業広告

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ad2.html>



「島津製作所の森」の間伐材を使用してSDGsバッジを製作
 当社が森林保全活動を行っている京都府南丹市にある「島津製作所の森」の間伐材を使用してSDGsのバッジを製作し、社員による着用を開始しました。SDGsのゴール15「陸の豊かさを守ろう」のもと、森林の整備を進めて間伐材を利用することで、地域固有の生態系の保全および林業の振興に寄与します。



日本取引所グループ(JPX)と東京証券取引所、日本経済新聞社が、グローバルな投資基準に求められる諸条件を満たした企業を選定する目的で2014年から公表を開始した「JPX日経インデックス400」の構成銘柄に選定されています。



経済産業省が日本健康会議と共同で、優良な健康経営の施策を実施している大規模法人を認定する制度「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」に3年連続で認定されています。



経済産業省と東京証券取引所が、全上場企業約3,600社の中から、業種ごとに、女性が働き続けるための環境整備を含め、女性活躍を積極的に推進する企業を選定する「なでこ銘柄」に3年連続で選定されています。



経済産業省が多様な人材の能力を生かし、中長期的に企業価値向上を実現している企業を選定する「新・ダイバーシティ経営企業100選」に初めて選定されています。

島津製作所 創業記念 資料館

株主様 無料入館券

本券1枚につき
4名様まで
無料で入館
頂けます。

2020年3月末
まで有効

キリトリ

島津製作所 創業記念資料館のご案内

当館は、創業100年を迎えたことを記念し、創業者である初代と二代目島津源蔵の遺徳を偲び1975年に開設されました。館内には、創業以来製造してきた理化学器械、産業機器やX線装置ならびに事業活動に関連する文献・資料などを展示しており、島津製作所の歩みとともに、日本の近代科学技術の発展過程をご覧頂けます。

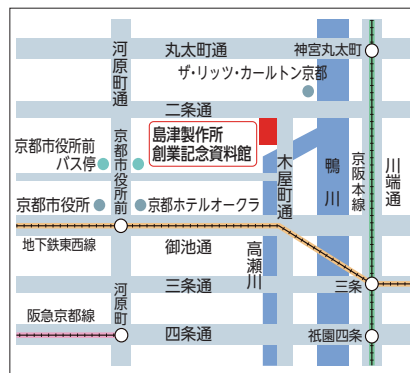
- 休館日/水曜日、年末年始
- 入館時間/9:30~16:30(閉館17:00)
- 入館料/大人300円 中高生200円
小学生以下 無料
団体割引(20名以上20%引)

※当館には、駐車場がございません。あらかじめご了承ください。



島津製作所 創業記念資料館 (登録有形文化財)

- 市バス「京都市役所前」下車徒歩約3分
- 京阪本線「三条駅」下車徒歩約7分
- 地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車2番出口徒歩約3分
(地下鉄烏丸線「京都駅」より「烏丸御池駅」乗換、地下鉄東西線「京都市役所前駅」下車)
- JR「京都駅」よりタクシーで約20分



〒604-0921

京都市中京区木屋町二条南

●TEL/075-255-0980

●FAX/075-255-0985

●<https://www.shimadzu.co.jp/visionary/memorial-hall/>



株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 株主確定基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
(その他必要ある場合は、公告のうえ設定します。)
- 公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載します。
<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/ir/kk.html>
ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、京都新聞および日本経済新聞に掲載します。

1単元の株数 100株

株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話(通話料無料) **0120-094-777**
受付時間 9時~17時(土・日・祝日等を除く)

証券コード 7701

上場証券取引所 東証第一部

「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられている株主の皆様へ

配当金は口座振込でも受け取ることができます。

配当金のお受け取りを、ご指定の銀行、または証券会社等の口座への振込にされますと、支払開始日に確実に入金されますので、大変便利です。

口座振込を希望される場合

- ①口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお申し出ください。
- ②証券会社に口座がない株主様は、左記三菱UFJ信託銀行株式会社
電話(通話料無料) **0120-094-777**
にお申し出ください。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む「FSC®認証紙」を使用し、植物油を用いた印刷をしています。

株式会社 島津製作所

<https://www.shimadzu.co.jp>